

自殺におけるハイリスク層である「**LGBTQ**などのセクシュアル・マイノリティ」への自殺防止
対策事業
～令和3年度(令和2年度からの繰越分)新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交
付金(民間団体実施分)～
事業実施状況報告(令和3年6月～令和4年3月)

標記事業を、(1)自殺におけるハイリスク層である**LGBTQ**への直接支援、(2)全国へのアウトリーチ、そして(3)支援者育成の3つの柱を通じ行い、**LGBTQ**の自殺防止対策におけるセーフティネット構築を行いました。

1. 常設型のコミュニティスペースを活用した対面による支援について

(1)「心の拠り所」としての機能

・全てのセクシュアリティの人にとって安心して過ごせる居場所を提供することができました。自殺防止対策において重要となる「所属意識」を他の場所では持てない**LGBTQ**等のセクシュアル・マイノリティ(以下地の文では「**LGBTQ**」)にとって貴重な心の拠り所となっています。「来場できなくてもそうした場所があるだけでも気持ち的に楽になった」等の声が寄せられています。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出自粛を強いられている中で、家族等からの差別的な言動からの避難場所にもなっています。緊急事態宣言下でも一定数の来場があることも、このことを示唆しています。＜資料1参照＞

(2) 対面相談への「導入線」としての機能

・対面相談に至る経緯は、来場した人へ居場所スタッフによる声かけにより、対面相談につながる等いわゆる「ドロップイン」の場合が、ネット検索でつながった場合と同数で最多1位となっています。これは、相談目的を明確にせず来場できるため、誰にも話せない悩みを持つ人にとっては対面相談へのアクセスへのハードルが高いが、居場所スタッフの対応等により相談への抵抗感を緩和しハードルを下げる機能を果たしていることが、明確となりました。＜資料2参照＞

2. 全国へのアウトリーチ

(1) 自殺防止対策団体とLGBTQ**支援団体との連携が要**

・各地域で実施にあたり、自殺防止対策団体と**LGBTQ**の課題に取り組む団体との接点が今までなかったことが認識されました。本事業を契機に、相互の連携をとっていく機運が高まり、地域での**LGBTQ**の自殺防止対策を進めるためにどうしていくのか具体的な取り組みに向けて自走していく土台ができました。今後、さらに多くの地域を広げていきたいと考えています。＜資料3参照＞

(2) 支援団体の実態とニーズ把握

・全国の団体をみたときに、支援団体内での自死対応の経験や個人へのサポートが手薄なため、ハイリスク層がいることが定性的に把握できました。そうした経験から、自殺防止対策事業に取り組むことへハードルを感じていることや、社会的な資源へのつながり等のリソースが不足していることも分かりました。今後は、そうした実態を把握し、どのようなニーズがあるか等を明らかにする調査が必要だと考えています。

3. 相談員の育成・連携～さらなる相談員へのアプローチ～

・本事業で作成した「支援者養成講座」や「啓発資料」を郵送等の配布方法でアウトリーチをしていくこととなりますが、さらなるアウトリーチを広げるためには、インターネットを使った拡散が重要であり、ネット広告等による戦略的な取り組みが求められています。

4. 自死遺族のグリーフケア～自死以外の死別も～

・自死ではなく病死等であっても、**LGBTQ**にとっては、近しい人の死別体験を、世間的に

も、遺族の会等の一般の支援団体の中でも共有することが難しいため、グリーフケアが必要です。この観点から、LGBTQの死別体験者は、自死におけるハイリスク層とも言えます。事業の結果、自死をはじめとした死別体験者を対象とし、共感を持ってグリーフケアを行える環境を整えるためには、大人数の場ではなく、人数をしばった形で、回数を増やして行うことが重要であると分かりました。

<資料1>プライドハウス東京レガシー来場者数の推移

									厚生労働省交付金対象期間												開設以降		
年	2020年			2021年													2022年			対象期間合計		目標	合計
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2021.6～2022.3月	月間			
開館日	10	18	8	7	18	21	23	25	23	24	23	22	21	22	20	18	19	21	213	20	343		
月間来場者数（人）	249	432	220	45	146	155	183	192	196	230	252	226	248	386	290	198	150	321	2,497	300	4,119		
一日平均（人）	25	24	28	6	8	7	8	8	9	10	11	10	12	18	15	11	8	15	12	15	12		
緊急事態宣言	2回目（1月8日～3月）3回目（4月28日～6月）4回目（7月12日～9月30日）																						

<資料2>いのちの相談窓口へのアクセスした経緯(2022年1月25日現在)

- ①レガシー来場:9件
- ②webでの検索:9件
- ③民間団体紹介:6件
- ④行政機関紹介:2件
- ⑤その他:2件
- ⑥不明:2件

<資料3>地域連携事業の実施状況

地域名		目標(人)	実績合計(人)	達成率	金沢	沖縄	福岡	大阪	仙台	連携事業報告会
研修会	相談員	50	220	440%	24	35	31	20	69	41
居場所・相談支援	当事者等	100	166	166%	70	41	14	26	15	0
合計			466		94	76	45	46	84	41

<参考>

○オンラインでのアウトリーチ(下記実績はいずれも2022年4月10日現在)

- ①『LGBTQ+いのちの相談窓口紹介』(公開中):YouTube172ビュー、Twitter1,100表示
- ②「ユースとLGBTQ+いのちの相談」(公開中):YouTube204ビュー
- ③「トランスジェンダーとLGBTQ+いのちの相談」(公開中):YouTube368ビュー、Twitter5,942表示

○LGBTQ+死別体験者の分かち合いの会(目標:のべ45人 実績:のべ25名参加)

12月(試行):5名参加(来場3名、オンライン2名)

1月:7名参加(来場5名、オンライン2名)

2月:6名参加(来場4名、オンライン2名)

3月:7名参加(来場6名、オンライン1名)

【柱1】LGBTQ当事者支援、遺族ケア

自殺におけるハイリスク層であるLGBTQ当事者やその友人・家族等近親者への相談支援、及び自死遺族へのケアを行いました。

ア)相談支援・居場所提供

(1)居場所提供

○事業内容・実績(アウトプット)

・国内初の常設LGBTQセンターである「プライドハウス東京レガシー」(以下地の文では「レガシー」)にて、居場所提供を行いました。(目標:総来場者数**3,000**人、月間来場者数**300**人、1日当たり**15**人 実績:開館日**213**日、来場者数**2,497**人、1日当たり**12**人)

		厚生労働省交付金対象期間																			開設以降	
年	2020年	2021年										2022年						対象期間合計		目標		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2021.6~2022.3月	月間	合計	
開館日	10	18	8	7	18	21	23	25	23	24	23	22	21	22	20	18	19	21	213	20	343	
月間来場者数(人)	249	432	220	45	146	155	183	192	196	230	252	226	248	386	290	198	150	321	2,497	300	4,119	
一日平均(人)	25	24	28	6	8	7	8	8	9	10	11	10	12	18	15	11	8	15	12	15	12	
緊急事態宣言			2回目(1月8日~3/3回目(4月28日~6月4日)4回目(7月12日~9月30日)																			

○事業実施によって得られた効果

<地域や社会に与えた影響>

- ・全てのセクシュアリティの方にとって安心して過ごせる場所を提供することができました。
- ・自殺対策において重要となる「所属意識」を他の場所では持てないLGBTQにとって貴重な心の拠り所となっています。「来場できなくてもそうした場所があるだけでも気持ち的に楽になった」等の声をいただいています。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりステイホームを強いられている中で、家族からの差別的な言動からの避難場所ともなっています。

<新たに明らかになった課題>

- ・居場所スタッフの役割として、居場所からの相談支援へのつなげることが、明らかになったため、自殺対策へ対応できるようにスタッフの体制の充実を目指します。

○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・コロナ禍においても安心して来場できるように感染予防対策を行いました。
- ・レガシーの開館日には、SNSで来場を呼びかけました。

(2)相談支援(来所・オンライン)

- ・自殺念慮を抱く当人や友人・家族のご相談に対応をするため、LGBTQ支援および福祉における専門性の高い相談員が来所・オンラインでの相談支援を行いました。

○事業内容・実績(アウトプット)

【相談者数等(2022年1月25日時点)】

(1)相談者数:45名 (2)のべ相談回数:86回

【いのちの相談窓口へのアクセスした経緯(2022年1月25日時点)】

レガシー来場:9件 (2)webでの検索:9件 (3)民間団体紹介:6件 (4)行政機関紹介:2件 (5)その他:2件 (6)不明:2件

【主な相談事例(複数の事例をもとに再構成しています。)]

(1)同性愛者であると気づいてから、中高年になった今まで、生きるか死ぬかも含めどのような人生を送ったらいいのかわからなかった。セクシュアリティについて家族は無理解で誰にも相談できなかった。いのちの窓口につながって、初めて自分のセクシュアリティについて話すことができた。前向きに考えることができるようになった。

(2)地方在住で、学齢期に同性愛者ではないかといじめられ人間不信となり、引きこもりを経験した。家族の死を契機に就労したが、会社でもアウティングされ、日々苦しい思いをしている。心を許せる人間関係が作れず孤独であり、同性愛者として生きていく希望が持てない。レガシーのような場で、自分も役に立つことができないか。

(3)身体的な移行をしていないトランスジェンダーであり、発達障害の診断も受けている。メンタルの状態も悪い。デイケアにも通っているが、ダブルマイノリティのため、他者から浮いていて、孤独感を感じている。しかし、医者やカウンセラーがジェンダーに関する悩みについて無理解で相談しても受け止めてもらえていないことがつらい。

(4)生活困窮状態にあり、性適合手術を希望しているが、できない。したとしても本物にはなれないとの思いもある。親は、過干渉気味ではあるが、親に対して罪悪感がある。そうしたことから、死にたい思いを持っており、安楽死の仕方を考えている。しかし、希望する性でない身体のままでは死にたくないという思いでゆれている。

<新たに明らかになった課題>

・必要な層に届けるためのアウトリーチの方法の拡充が必要だと考えています。現在の相談につながるルートとしては、(1)レガシーに来場して相談につながるルートと(2)インターネットによる検索でつながるルートが主になっています。

(1)の来場のルートでは、コロナ禍で来場することそのものが困難な状況では、リーチを伸ばすことが困難になります。その対応として、コロナ禍でも安心して来場できる環境づくりを継続して行います。

また、来場していただいた方に対しては、カウンセリング的な視点を持ち、相談ニーズを受け止められるような受容性を高めた対応ができるスタッフの配置と育成を行なっていきたいと考えています。

(2)インターネットを活用したアプローチとしては、SNS等の発信を積極的に行なっていますが、潜在的な層へのアウトリーチができるようなターゲットを絞った広告等の活用等工夫ができるように検討します。

・行政の自殺担当部署や自殺対策団体とさらなる相互連携ができる関係を構築して、セーフティネットの網をきめ細かくして、救える層を増やしていきます。

○取り組みの工夫(実施体制・プロセス)

①専門性の高い相談員の確保

・LGBTQの支援経験のある有資格者(電話相談コーディネーター、公認心理士、臨床心理士、保健師、相談支援専門員、母子自立支援員兼婦人相談員、社会福祉士、心理カウンセラー)を相談員として選任しました。

②相談支援実践講座の開催

・自殺対策事業の実施団体のコーディネーター等から実践に当たっての心構えや考え方について話を聞いたほか、ロールプレイ等で相談員の実践力を高めました。

③継続的な改善のため定期相談員会議の開催

・相談事例を共有し、悩んだことや戸惑ったことも含め話し合うことで、相談員の感情的なケアも行いました。グループスーパービジョンを行い、質の高い相談支援を実施できるよう務めました。相談者から問われたことや相談者が必要とする情報に答えられるように相談員

チーム内で情報を教え合うこともしました。

④他の相談窓口・団体との連携

・相談者の必要に応じて、レガシーで行っている「ラップアラウンドサポート」(24歳以下のLGBTQ+、もしくはLGBTQ+ではないかと思う人を対象とした相談支援プログラム)「法律相談」「暮らしの相談」からつなげてもらったり、つないだりしました。また、他団体から紹介を受けたり、他団体で行われている支援を紹介したりしました。

(3)キャリア相談

○事業内容・実績(アウトプット)

・希死念慮の要因となりやすい困窮・失業等にも対応するために、就労支援を行なっている連携団体の協力により「LGBTQ+キャリア相談」を行いました。なお、相談者のうち69.2%(のべ36名)が精神障害があるLGBTQでした。複雑化・複合化した課題への支援体制を構築することができています。

・のべ相談回数:52回・相談者数:40名

【主な相談事例(複数の事例をもとに再構成しています。)]

(1)トランスジェンダーでうつがある。非正規雇用だったこともあり、コロナ禍で失業し、うつも悪化した。トランスジェンダーでかつ精神障害があることを伝えたら、どこにも就職できないのではないか。辛い、生きていけると思えない。地元で相談できる場所なんてないので、初めて相談できて、感謝している。

(2)就活生。自認する性別で働きたいが、どうしたらいいのかわからない。スーツやエントリーシートの性別欄でどちらを選択していいのかいつも悩んでいる。また、セクシュアリティを言ったら、採用されないのではないかと不安で就活を進められていない。LGBTQにとっても働きやすい職場作りに取り組む企業はどう探したらいいのか。

(3)職場でセクシュアリティに関してアウティング(暴露)をされて、精神障害になり、退職。福祉サービスやハローワークでこのことを伝えたら「セクシュアリティを言ったあなたも悪い、次の職場では言わない方がいいのでは?」と言われて、安全に相談できないと感じた。福祉さえ安全に利用できないのにどうやって再就職できるのか。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・LGBの42%、Tの87%が就活時に困難・ハラスメントを経験するも、二次被害を恐れて96%は就労支援機関に相談できないという調査もあります(参照:NPO法人ReBit(2019)「LGBT的マイノリティの就職活動における経験と就労支援の現状調査」)。LGBTQが安心してキャリアについて相談できる場を継続して持てたことは大きな意義があります。

＜新たに明らかになった課題＞

・相談者のうち69.2%(のべ36名)が精神障害があるLGBTQでした。また、LGBTQは平時から非正規雇用の割合が高く、コロナ禍での失業や生活困窮等における相談もあり、複雑化・複合化した課題への支援体制を構築することが重要であることが分かりました。

○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・実施委託は、LGBTQかつ精神障害がある人たちへのキャリア支援を行う認定NPO法人ReBitで、国家資格キャリアコンサルタントと精神保健福祉士等、キャリア支援と福祉のプロ

フェッショナルがともに相談員となったことで、複雑化・複合化した課題への支援体制を構築することができました。なお、オンラインでの支援を行ったことで、さまざまな地域に住んでいる人からの相談を受けることができました。

イ) 自死遺族ケア

○事業内容・実績(アウトプット)

・LGBTQの周囲の人はグリーフケアを受けづらい状況があるため、LGBTQの遺族を主対象としたわかちあいの会を行い、心理的安全が保たれた場でグリーフケアを提供しました。(目標:のべ45人参加、実績:のべ25人参加)

【開催場所】

プライドハウス東京レガシー及びオンラインにて開催

【開催日時・参加者数】

(試行):12月26日(日)15:00～17:00 5人参加(来場3人、オンライン2人)

第1回:1月23日(日)10:30～12:00 7人参加(来場5人、オンライン2人)

第2回:2月27日(日)10:30～12:00 6人参加(来場4人、オンライン2人)

第3回:3月27日(日)10:30～12:00 7人参加(来場6人、オンライン1人)

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・LGBTQの死別体験を話せる場所はほとんどないので、貴重な場を提供できたと考えます。

・参加者からは「気分が晴れた」「発言することができてスッキリした」「自分がおかれている状況を再認識することになった」等の感想が寄せられ、気持ちを吐き出すことができ感情面のケアが行うことができたと考えられます。

＜新たに明らかになった課題＞

①グリーフケアの必要性の啓発

・死別を経験した人が立ち直るには「グリーフケア」が必要だということ自体を啓発することが大切であり、特にLGBTQの場合には、経験を公に共有することが少ないため、その必要性が高いことが、改めて認識されました。

②一人ひとりに寄り添う

・気持ちを吐き出すだけではなく、喪失の感情をケアするようなイベントや、経験者から立ち直った切っ掛け等を聞く講演等を求める声もありました。さらに、一人当たり話せる時間を増やして欲しいとの要望もありました。

・①と②を踏まえ、今後、この事業の周知を進め、開催回数を増やすように取り組んでまいります。分かち合いの会の開催を踏まえて、LGBTQのグリーフケアに関するイベントや講演の開催について検討を行います。

○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・ファシリテーター(司会進行)役としてターミナルケア専門の医師や遺族支援コーディネーター等に参加してもらい、安心してグリーフケアができるようにしました。

【柱2】全国へのアウトリーチ・啓発

特に地方のLGBTQはより孤立しやすく、かつ情報を得られづらい状況があります。そのた

め、各地へのアウトリーチ及びオンライン発信を活用し、全国へ支援や情報を届けました。

ウ) 地域でのアウトリーチ支援・相談員育成

・LGBTQの課題に取り組む団体(以下地の文では「LGBTQ関連団体」)、自殺対策に取り組む団体、行政と連携し、アウトリーチを行いました。**a.**相談支援者の育成講座、**b.LGBTQ**の居場所提供、**c.**相談支援を**5**地域(金沢、那覇、福岡、大阪、仙台)で実施しました。

○事業内容・実績(アウトプット)

(目標:LGBTQやその友人・家族等のべ**100**人、自殺防止対策に取り組む相談員のべ**50**人
実績:LGBTQやその友人・家族等のべ**166**人、自殺防止対策に取り組む相談員のべ**220**人)

地域名		目標(人)	実績合計(人)	達成率	金沢	沖縄	福岡	大阪	仙台	連携事業報告会
研修会	相談員	50	220	440%	24	35	31	20	69	41
居場所・相談支援	当事者等	100	166	166%	70	41	14	26	15	0
合計			466		94	76	45	46	84	41

(1)金沢

10月10日開催の「金沢プライドパレード2021」に合わせて以下の事業を実施しました。

a.北陸LGBTQ+関連団体および北陸自殺対策関連団体のネットワーキング

①日時:2021年10月9日(土)9時30分～11時30分

②会場:金沢大学サテライト・プラザ 3階集会室(金沢市西町三番丁16番地金沢市西町教育研修館内)、オンライン配信(Zoom)

③参加費:無料

④主催:プライドハウス東京

⑤協力:一般社団法人 金沢レインボープライド

⑥参加者数:24人(オンライン参加13人、会場参加11人)

⑦参加団体:金沢こころの電話、メンタルケア協会、よりそう仲間

⑧内容:

・内閣府の自殺総合対策大綱にてハイリスク層とされるLGBTQに対する支援体制を北陸地域でも強化するために、地域でLGBTQの課題に取り組む団体と、自殺防止対策の活動をしている団体の情報交換の場を設け、今後の連携のために関係構築を行いました。

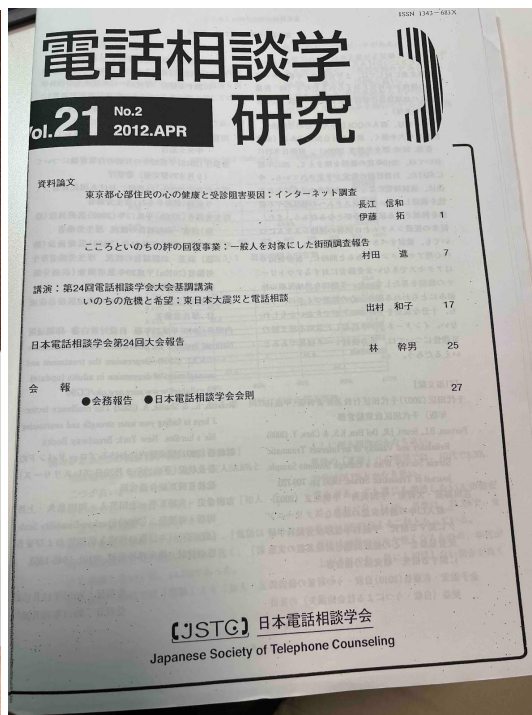
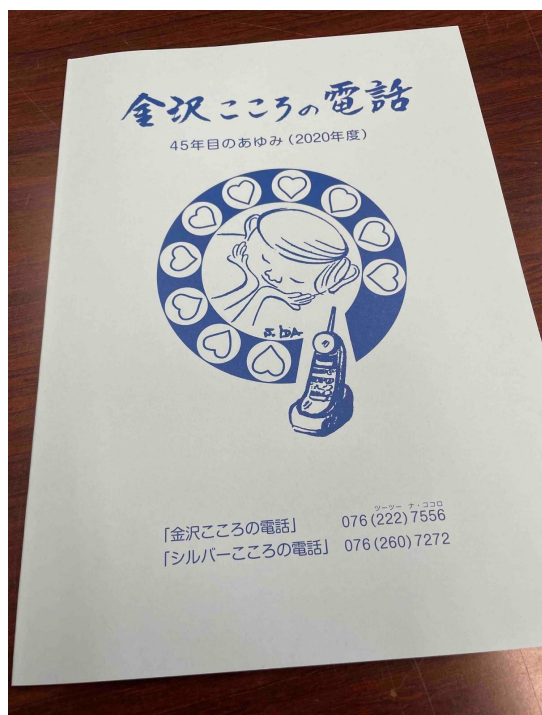
⑨当日の様子:



・ダイバーシティラウンジ富山・富山大学准教授の林夏生氏から、北陸エリアのLGBTQ当事者の生きづらさ、行政施策や教育現場の課題、居場所づくりの留意点、北陸エリアでLGBTQの課題に取り組む団体の連携の意義について話がありました。

・46年間にわたって自殺防止対策に取り組む「金沢こころの電話」会長の村田進氏から、青少年の自殺防止を趣旨として開設された経緯、1台の電話に始まって現在は200名の会員が相談対応をしていること、相談方法のスタイル、2011年に実施した自殺意識に関するアンケート調査の報告をしていただきました。その調査を踏まえ、自殺にまつわる心理状態としては実行への傾きとそれを抑える働きの両方が想定される一方、他者に支援を求めている人は7割に上り、その層の人々が支援を求めたくなるような「絆」のあり方が今後の課題であるとの話がありました。

・LGBTQであることについて人知れず悩んでいた人、密に相談していた人はこれまでもおそらくいたであろうこと、会員に対して性の問題や性の多様性に関する理解を深める必要があること、お互いの共通の課題を共有する意義にも言及されました。



・オンライン・オフライン参加者同士による団体紹介や意見交換も実施しました。主催のプライドハウス東京より、自殺防止対策やこころの相談等に携わる相談員の方々へ情報や知識を共有できる場づくり、今後のステップについての情報共有、相談員向けのLGBTQ研修、LGBTQの課題に取り組む団体のメンバーも自殺対策の知識が身につけられる機会を設けたい旨の提案をしました。

b.c.金沢プライドパレード会場にて**LGBTQ**の相談支援・居場所提供

- ①日時:2021年10月10日(日)12時～15時
- ②会場:いしかわ四高記念公園(パレードのスタートとゴール)(金沢市広坂2)
- ③参加費:無料
- ④当日の様子:



・当日は、レガシーによる「出張レガシー」ブースを出展。このブースを拠点に、「LGBTQの相談支援・居場所提供」の位置付けで、レガシーから本事業担当者と相談員が参加しました。

・実際の相談事例はありませんでしたが、ブース訪問者へレガシーや「LGBTQ+いのちの相談窓口」のご紹介とリーフレット配布等を行いました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

a.北陸LGBTQ関連団体および北陸自殺対策関連団体のネットワーキング

・金沢でいのち電話相談をされている団体等の参加がありました。ネットワーキングの中で、参加団体間での課題意識が近いことがわかり、さまざまな団体と連携が進みました。他団体からLGBTQへの対応についても勉強したいとの声が多く寄せられる等、参加団体内でのLGBTQへの支援の必要性の認識が広まりました。

b.c.金沢プライドパレード会場にてLGBTQの相談支援・居場所提供

・幅広い年代やセクシュアリティの人が来場しました。金沢市を中心に、北陸在住のアライの方も多く来場しました。

・開放的な場で開催したため、「話をききたい」という人が多かったが、レガシーのオンライン相談につながるケースもありました。

・自分以外の当事者と話すのが初めてという人もおり、スタッフと親しくお話をすることで、表情も明るくなっていきました。誰かと安心して話せることが大事な機会になったのだと感じました。

・「金沢レインボープライド」「レインボーハート富山」「ダイバーシティラウンジ富山」「石川県によるHIV・エイズのパネル展示」「石川県内の団体」といった地元の団体ともブースで話し合い交流を深めることができました。

＜新たに明らかになった課題＞

・レガシーに行ったことはないが、SNS等でその存在を知っているという人がいました。また、実際に訪れたことがあるという人もいました。レガシーが地方でも知られるようになってきたことや、地方の当事者からも期待を寄せられていることを実感できました。今後も地方との連携・支援をさらに広げ、その期待に応えていきたいと考えています。

・ブースにおける個別の相談支援については、相談を実施しているというアピールをあまりしなかった結果相談につながりづらかったと思われ、告知の方法の工夫の必要性を感じました。

○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・プライドハウス東京を紹介するパネルの前で足を止める人が多く、「暑いですね」「金沢でもこんなに暑くなるのですか?」「北陸に在住の方ですか?」「LGBTQってご存知ですか?」と話しながら、交流のきっかけを作る工夫を行いました。

・多くの当事者が参加するイベントであるパレードに出展することで、当事者の人たちがパレード前後で訪れる等、レガシーのブースが拠り所として機能することができました。

＜参考＞金沢パレード:北陸初のLGBTQパレードで、金沢市内を一周。

①日時:2021年10月10日(日)12時～15時

②主催:一般社団法人 金沢レインボープライド

③パレードのコース:兼六園下ー橋場ー近江町市場前ー尾山神社前ー香林坊ー片町スクランブル交差点ー鱗町ー金沢21世紀美術館前ー広坂ーいしかわ四校記念公園

(2)沖縄

2021年12月11日開催の「ピンクドット沖縄2021」に合わせて、下記の事業を行いました。

a.LGBTQ+団体・自殺対策団体 沖縄ネットワーク会議

①日時:2021年12月10日(金) 18時～20時

②会場:ホテルパームロイヤルホテルNAHA国際通り(沖縄県那覇市牧志3-9-10)、オンライン配信(Zoom)

③主催:プライドハウス東京

④協力:一般社団法人ピンクドット沖縄

⑤参加者数:35人(オンライン参加27人、会場参加8人)

⑥内容:

(1)LGBTQ基礎知識と今後の課題 竹葉梓氏(ていーだあみ共同代表)

(2)自殺防止対策の取組を通じて 伊藤朋世氏(社会福祉士・精神保健福祉士)

(3)団体同士の紹介と意見交換

⑦当日の様子

(1)ていーだあみ共同代表の竹葉梓氏から、「LGBTQ基礎知識と今後の課題」と題した講演がありました。沖縄の特徴であるトートナー(位牌)の承継者が全財産を引き継ぐのは男性のみであることや、狭い人間関係の中で多面的な人間関係の構築がしづらく、段階的な自己開示が難しいことからカミングアウトがしにくいこと、経済力の確保が困難であり独立生計が難しい等の特に沖縄における文化的な背景とその影響について詳しく聞くことができました。那覇市での宣言やパートナーシップ制度、浦添市で作成された条例、2021年4月から始まった沖縄県による電話相談等、沖縄での進展についても紹介されました。

(2)沖縄にて社会福祉士・精神保健福祉士として、電話相談等に10年間取り組んでいる伊藤朋世氏から「自殺防止対策の取組を通じて」と題した講演がありました。その中で、自殺に至るまでにはいくつかの要因が複合的に影響していること、死にたい気持ちを受けとめる際は立体像を想像するよう心がけていることや、性と生についての悩みの関連性について解説されました。

(3)質疑応答では「自分のセクシュアリティについて自覚した時期やカミングアウトした時期やきっかけは」「東京等と歴史と文化が違うのでどのように取り組んでいくのか」「この事業を企画された経緯はどうだったのか」等の質問がありました。また、学生サークルを主催している人や、聴覚障害者のグループ「いるまんちゃー」、那覇市のコミュニティセンター「mabui」を運営されている人等からそれぞれの活動の紹介もなされました。

b.c.沖縄にじいろセーフスペース

①日時:2021年12月11日(土) 13時～18時

②会場:みんなの貸会議室那覇泉崎602会議室(那覇市泉1-13-3 資格の太原沖縄校ビル 旭橋駅近く)

③主催:プライドハウス東京

④協力:一般社団法人ピンクドット沖縄

⑤参加者数:11人

⑥内容:

気軽に談話ができるような居場所の提供、個別相談

⑦当日の様子

- ・地域で活動されている団体のメンバーが中心となり会場設営や交流企画等を運営しました。
- ・来場者同志によりカードを使った談話も行われ、お互いの生活に踏み込んだ深いコミュニケーションを行うことができました。

d. 沖縄LGBTQ＋関連団体 ゆんたく会

- ①日時:2021年12月11日(土) 18時～20時
- ②会場:みんなの貸会議室那覇泉崎602会議室(那覇市泉1-13-3 資格の大原沖縄校ビル旭橋駅近く)
- ③主催:プライドハウス東京
- ④協力:一般社団法人ピンクドット沖縄
- ⑤参加者数:30人
- ⑥内容:沖縄で活動する、LGBTQの課題に取り組む団体や個人同士が自由に歓談できる場を提供し、相互の交流を実施しました。
- ⑦当日の様子:
 - ・参加者の所属団体は、「一般社団法人ピンクドット沖縄」「ていーだあみ」「にじゆい」「nankr」「いるまんちゃー」「一般社団法人ちむぐみ」等、沖縄で活動する主な関連団体の参加をいただきました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

a. LGBTQ＋団体・自殺対策団体 沖縄ネットワーク会議

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で人と出会うことが難しい中での開催となりましたが、「今回、沖縄で活動している方々が一堂に会することができた」等の声が寄せられました。
- ・LGBTQの課題に取り組む団体以外で活動している人も参加し、LGBTQの課題に取り組む団体の人と積極的に連絡先の交換をされる等、新たな交流を促進できました。

b.c. 沖縄にじいろセーフスペース

- ・来場された人のうち、特に引きこもっていた人にとっては、久しぶりに対面できるような機会の提供になりました。お互いの近況確認等ができることで、精神的サポートとなったのではないかと思います。

d. 沖縄LGBTQ＋関連団体 ゆんたく会

- ・新型コロナウイルス感染症拡大による自粛ムードの影響で、県内からの発案では実現しづらい雰囲気がある中で、県外のプライドハウス東京からの呼びかけがあり集まることのできたとのことでした。
- ・沖縄でパレードを実現したいとの表明する人が出る等、団体間で話が盛り上がりました。

＜新たに明らかになった課題＞

① 地方での拠点づくり

- ・「レガシーの存在は知っていた」「レガシーを初めて知りました」「沖縄から遠い東京にあるレガシーだけど、東京にそういう場所があるというだけで安心する人がいると思う」「都道府県立図書館のように、47都道府県にレガシーのような場所が必要だと思います」「沖縄でもレガシーのような場所を作りたい」等、レガシーに対する認知や期待の声が寄せられました。

・地方で居場所や相談支援等の拠点を作る際の支援(ノウハウの提供等)を進めていけるように整理を行い、地方での期待やニーズに応えられる仕組みづくりが求められていることを改めて感じました。

②地方での情報提供

・「HIV・エイズの情報が欲しい」「英語表記のある情報は沖縄で手に入れることが難しい」「トランスジェンダーについての冊子が配布されたことは大きなことだと思う」等の声が寄せられ、地方での情報提供の必要性も再認識させられました。今後、地方への情報発信へ力を入れていきたいと考えています。

③地域団体等の実態把握

・地域団体の人たちと事業実施に伴い、親密な関係の中で話をすると個人的な自死にまつわる経験や団体のメンバーの自死対応等の話を聞くこともあり、今後、地域団体の方々と地域での自死にまつわる経験や自殺対策に必要なこと等についてじっくり話を聞く機会が持てればと思いました。また、ヒアリング調査等の形で地域の自殺の実態を把握し、どのようなニーズがあるか等を明らかにしていく必要があると考えています。

○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・地域の事情や特性を生かすため、地域で活動している団体と企画段階から打ち合わせを重ねながら事業構築を行いました。

・運営に当たっても、地域で活動している団体や個人が中心に担うように側面からの支援を行いました。

<参考:ピンクドット沖縄2021>

LGBTQなどの性的マイノリティを含む全ての人が生きやすい社会を目指すイベント

①日時:2021年12月11日

②会場:那覇市琉球新報ホール

(3)福岡

a.LGBTQ+団体・自殺対策団体 福岡ネットワーク会議

①日時:2021年3月20日(日)10時~12時

②会場:みんなの貸会議室博多駅前店303会議室(福岡市博多区博多駅前1-3-22かき善ビル3階)、オンライン配信(Zoom)

③参加費:無料

④主催:プライドハウス東京

⑤協力:NPO法人Rainbow Soup

⑥参加者数:会場参加14人、オンライン参加17人

⑦内容:

・プライドハウス東京の自殺防止対策事業の紹介

・傾聴と対話を通じた支援を目指して:河邊正一氏(福岡いのちの電話 事務局長)

・LGBTQ基礎知識と今後の課題:三浦暢久氏(NPO法人カラフルチェンジラボ 代表)

・LGBT電話相談の現場から:石井謙一氏(福岡県弁護士会LGBT委員会 委員長)

・意見交換、質疑応答

⑧当日の様子

・福岡いのちの電話の河邊正一氏から、1984年から福岡で実施されてきた取り組み概要として、相談実績や相談内容、そして相談活動における「通話者の心に対等な立場で共感を持って寄り添う」姿勢、自殺念慮を抱える方の特徴、傾聴と対話の重要性について説明がありました。自殺の原因は複合的であり、さまざまな分野による連携した支援の必要性を訴えていました。

・NPO法人カラフルチェンジラボの三浦暢久氏から、LGBTQの基礎知識や当事者が体験するさまざまな事例について紹介がありました。性に対するアンコンシャスバイアスや根強い性別規範が、当事者に困難や自尊心低下をもたらしており、そうした社会構造の解決が必須であることが指摘されました。

・福岡県弁護士会LGBT委員会の石井謙一氏から、弁護士会としての取り組みの経緯とLGBT電話相談を通じて感じている課題について話がありました。相談担当の弁護士は、緊急性の高い案件についての対応スキルが不足していること、他団体等につなぐスキームが属人的になっていること、福岡県外からの相談への継続的なフォローの難しさを挙げ、継続的な連携の場の必要性を訴えていました。

・質疑応答では、「大切な問題を、否定的な人たちにどのように伝えたら良いのか知りたい」「自己肯定感を取り戻した経験があれば、そのきっかけやどういった事があったのかを伺いたい」「電話相談の役割を理解してもらう説明のポイントは」と、さまざまな立場からの声が寄せられました。また長崎や宮崎でLGBTQの課題に取り組む団体から、地域での取り組みや課題についても共有され、オンライン・オフライン問わず、活発なやり取りが行われました。

b.c.福岡にじいろセーフスペース

①日時:2022/1/9(日)2022/2/13(日)2022/3/6(日)いずれも14時～16時

②会場:コミュニティセンターHACO(福岡市博多区住吉4-4-21住吉エバーライフ1階)

③参加費:無料

④主催:プライドハウス東京

⑤協力:コミュニティセンターHACO、パーチ福岡、NPO法人Rainbow Soup

⑥参加者:

【居場所提供】

第1回(1/9) 5人、第2回(2/13) 1人、第3回(3/6) 4人 合計10人

【相談支援】

第1回(1/9) 1人、第2回(2/13) 1人、第3回(3/6) 2人 合計4人

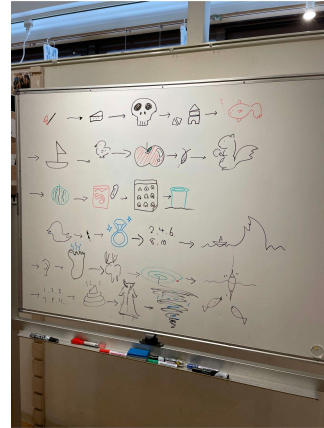
⑦内容:

・来場者がスタッフと会話をしたり静かに本を読んだりして自由に過ごせる居場所を提供しました。

・居場所提供の時間帯に、相談者1名につき1時間、事前予約制の1日2枠で相談支援を実施しました。相談支援を担当する相談員は、相談実績のあるスタッフ1名が担当しました。

⑧当日の様子:

・LGBTQ関連資料や書籍を閲覧自由にし、参加者と一緒にお絵描きしりとりやボードゲームをしたり、「将来について」「身近な人との付き合い方」等のテーマでフリートークを実施したりしました。



・しゃべらない人もいましたが、他の人の話は聞いている様子でした。しゃべらなくてもそこにいていい、という安心感を作ることの大切さを感じました。全ての回の参加者が最後まで参加していました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

a.LGBTQ+団体・自殺対策団体 福岡ネットワーク会議

- ・自殺の原因は複合的であるということを踏まえ、自殺防止対策を効果的に進めるためには分野横断的に連携することが不可欠という点を、多くの参加者と共有できました。
- ・参加者にとって「自分にできることは何か」を考えるきっかけになったことが、意見交換時の熱気やアンケートから伝わりました。また、今回の企画が今後の取り組みの起点になる可能性も感じました。

b.c.福岡にじいろセーフスペース

- ・相談利用者からは「筆談を交えて相談したい」「顔が見える相手に相談したい」といった声が寄せられ、これまで福岡にはなかった対面での相談の場に対するニーズがあることが分かりました。

＜新たに明らかになった課題＞

a.LGBTQ+団体・自殺対策団体 福岡ネットワーク会議

- ・LGBTQの自殺のリスクに関する認識をより多くの団体で共有すると同時に、地域や分野を横断して連携する必要があると再認識しました。

b.c.福岡にじいろセーフスペース

- ・居場所について、気軽に会話するための場がいいのか、ゲームやワークショップを取り入れたほうがいいのか、どれだけ構造化するか等は、参加者層や目的に合わせて検討する必要があると感じました。
- ・「死にたいほどつらい」気持ちを取り扱うことができる場にするには、仕組みをより練る必要がありました。今後、相談支援の体制が未発達な地域で相談の場を作る際には、利用者にとっての安全性や相談しやすさについて、より緻密に条件を設定することが重要だと考えました。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・相談支援に関して、筆談対応をしたことで、複合的なマイノリティの人に対してもきめ細やかな対応をすることができました。

(4)関西

a.セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2022分科会「関西LGBTQ+ 関連団体および関西自殺対策関連団体のネットワーキング」

①日時:2022年1月30日(日)13時30分～15時30分

②会場:オンライン配信(Peatix)

③参加者数:20人

④内容:

(1)築瀬健二氏(NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝)

(2)高橋朗氏(ソラニジ・アカシ)

(3)コジ氏(NPO法人QWRC)

(4)質疑応答

⑤当日の様子:

(1)築瀬健二氏(NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝)から、被差別部落地域に根ざした住民主体の活動、SNSやチャットによる自殺防止相談、電話や対面による支援や、地方自治体の具体的支援へのつながり、ハイリスク者への緊急対応、居場所づくりへの支援についてお話をいただきました。

(2)高橋朗氏(ソラニジ・アカシ)から、LGBTQのコミュニティサロン「そらにじあかし」の参加者が、受け入れてもらった側から受け入れる側になっていき、参加者自身が場を作っていくこと、ピア同士の安心感によって自己の存在を肯定できていることが共有されました。「地方においては、差別が根強く、性表現は多様ではない。そんな中で生きるLGBTQのストレスは深刻だと思います。交流会は丁寧に運営することでゲートキーパーになり得ると思う」との指摘もありました。

(3)コジ氏(NPO法人QWRC)からは、いろいろな人がつながることができる場の提供、自助の精神について説明がありました。自身の生き死にに関する話もありました。交流会がさまざまなテーマ別に設定されていました。「主催者として、交流会でみんなが機嫌よく過ごせてまた来たいと思える場を設定することで、つながっていける」と力説していました。

(4)質疑応答では「QWRCがLGBTフレンドリー事業所一覧を作っていたが、どうやってつながっていったのか」「地域コミュニティの取り組みのなかで、LGBTQの人が地域でオープンに暮らすうえで苦労というか困難がありそうだな、と思うところはありますか」「当事者としては地域でカムアウトが難しいと思う」「自殺予防も重要と思いますが、グリーフケアもLGBTQにはリソースがないように思う」といった話がなされました。

b.「LGBTQ+の生きることと死ぬことを考える one day ～無料個別相談会」

①日時:2022年3月13日(日)14時～16時

②会場:QWRC事務所(対面)、ゆとりちゃん3階(オンライン)

③参加費:無料

④主催:NPO法人QWRC、プライドハウス東京による共催

⑤参加者数:対面4人、オンライン3人

⑥内容:

・LGBTQに対して理解のあるカウンセラー(臨床心理士、公認心理師)が、相談に対応しました。事前予約制で、1人当たり30分の相談時間を確保。そのほか、筆談やオンラインでのチャットでの相談に対応しました。

c.「LGBTQの「生きる」と「死ぬ」を考える1dayワークショップ」

①日時:2022年3月13日(日) 14時~16時

②会場:ゆとりちゃん(大阪府大阪市北区西天満 4-8-1)

③参加費:無料

④主催:NPO法人QWRC、プライドハウス東京による共催

⑤参加者数:19人

⑥内容:

・レインボー工作

・フリースペース

・生きることと死ぬことをテーマにした「体験談を聞く」懇談会

⑦当日の様子:

・各参加者は工作やフリースペースで思い思いに時間を過ごしながら、懇談会でそれぞれの経験や考えを語り合い、聴き合いました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・工作やフリースペースでの会話により、リラックスした雰囲気的环境を作ることができ、当事者にとって「心の居場所」となりました。

・体験談の懇談会では、LGBTQにとって生きることと死ぬことがいかに身近なことであるかについての認識を共有したほか、他者の経験に対する共感が醸成されました。

・地域の団体にとっても、地域の民間のコミュニティスペースとの連携をすることができ、こうした居場所活動を行う経験を通して、今後同様な活動を行う契機になることが期待されました。

＜新たに明らかになった課題＞

・コロナ禍での開催となり、対面での参加人数等をどうするかについて方針を決めることが難しかったため、来場者に対する告知を十分に準備することができませんでした。

・居場所活動に関しては、単独団体での開催となり、アウトリーチできる層が限定されるため、来場者の幅を広げることの必要性が認識されました。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・「生きることと死ぬこと」という重大なテーマのイベントでしたが、工作やフリースペースでの交流、昼食のカレーの提供を通して、気軽に参加できる雰囲気づくりを行い、居心地の良い空間にすることができました。

(5)東北

a.シンポジウム 性的マイノリティと自殺防止対策～仙台市・宮城県・東北地方における現状と課題

- ①日時:2022年2月11日(金) 13時～16時
- ②会場:オンライン配信(Zoom)
- ③参加費:無料
- ④主催:プライドハウス東京、にじいろCANVAS
- ⑤参加者数:69人
- ⑥内容:

【第一部 性的マイノリティと自殺防止対策の現状】

- (1)自殺におけるハイリスク層である「LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティ」への自殺防止対策事業(プライドハウス東京 前田邦博)
- (2)LGBT相談の状況について(宮城県環境生活部共同参画社会推進課 男女共同参画推進専門監 堀内瑞氏)
- (3)仙台市の自殺防止対策について(仙台市保健福祉局障害者支援課 課長 高橋聡氏)
- (4)地方の性的マイノリティが置かれている現状(にじいろCanvas 小浜耕治氏)

【第二部 シンポジウム 地域における性的マイノリティの自殺対策防止とは～多様な背景と各機関の連携を考える】

- (1)仙台弁護士会の取り組み(弁護士 太田伸二氏)
- (2)多職種連携の相談窓口～みやぎの萩ネットワーク～宮城県から自死0を目指して(みやぎの萩ネットワーク 鈴木琴似氏)
- (3)にじいろCanvas 小浜耕治氏
- (4)質疑応答

⑦当日の様子:

【第一部】

- (1)プライドハウス東京の前田邦博からは、自殺におけるハイリスク層である「LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティ」への自殺防止対策事業について報告がありました。具体的には「LGBTQ当事者支援、遺族ケア」「全国へのアウトリーチ・啓発」「相談員の育成・連携」でした。特に喫緊の課題であるLGBTQユースへの支援については、その必要性についてアンケート結果を基に説明しました。
- (2)宮城県環境生活部共同参画社会推進課・男女共同参画推進専門監・堀内瑞氏からは、宮城県のLGBTQ相談の概説、内容や件数等について説明がありました。宮城県男女共同参画基本計画の中に、多様性への取り組みが記載されていることにも言及されました。自殺対策の根拠を明確にする必要性を感じました。
- (3)仙台市保健福祉局障害者支援課・課長・高橋聡氏からは、仙台市の自殺防止対策について説明がありました。自死等の傾向を踏まえた主な取り組みについては、LGBTQ当事者だけではなく、高齢男性や若年女性を対象とした対応についても共有され、非常に参考になりました。
- (4)にじいろCanvasの小浜耕治氏からは、地方のLGBTQが置かれている現状について説明がありました。LGBTQについての基礎基本である多様な性の捉え方や、当事者が抱える課題についても触れていただきました。地方で必要な相談支援体制については、リファー先や各機関の連携の必要性についても言及されました。「問題解決に伴走し支え合う支援」というキーワードが提示され、今後は特に支援者同士もつながっていくことが求められると参加者同士で確認することができました。

【第二部】

(1)弁護士の太田伸二氏からは、仙台弁護士会の取り組みについて発表がありました。仙台弁護士会で多様な性にまつわる講演会が行われたこと、LGBTQについての電話相談を実施してきたこと等について説明を受けました。

(2)みやぎの萩ネットワークの鈴木琴似氏からは「多職種連携の相談窓口～みやぎの萩ネットワーク～宮城県から自死0を目指して」をテーマに話がありました。団体設立の経緯や具体的な取り組みについて紹介してもらいました。特に関係機関との連携を意識しているということについては、本イベントとの関連を強く感じました。

(3)シンポジウムではにじいろCanvasの小浜耕治氏がファシリテーターを担当し、LGBTQの自殺防止対策をテーマに話を進めていきました。「各団体がどう連携していくか」「支援者の心構えは」「相談者との信頼関係をどう構築するか」「団体同士の信頼関係をどう構築するか」等のトピックについて、議論を深めました。

(4)参加者から、Zoomのチャットで質問や感想を受け付けました。

b.c.居場所・相談会(相談員の交流会を兼ねる)

【セーフスペース～にじいろみやぎ】

①日時:2022年3月12日(土)13時～17時

②会場:PARM-CITY131会議室(仙台市青葉区一番町3丁目1-16 PARM-CITY131)、オンライン配信(Zoom)

③参加費:無料

④主催:プライドハウス東京、にじいろCANVAS

⑤参加者数:対面5名・オンライン4名・スタッフ6名

⑥内容

・多様な性のあり方と共にある人が、気軽に立ち寄り、交流したり、ゆっくり過ごしたりできる居場所を提供しました。

13時～13時10分 フリータイム

13時10分～13時50分 テーマトーク「地方のいいところ、いやなところ」

14時～15時30分 フリータイム

15時40分～16時20分 テーマトーク「困ったらどうしている？」

16時20分～17時 フリータイム・終了

⑦当日の様子

・参加者とスタッフが、対面とオンラインを併用し、テーマトークとフリートークを行いました。参加者から、日常生活の中で感じていることや「こんな居場所があつたらいいな」といったこと等、さまざまな話題が提供され、それについて対話しました。。困りごとの話だけでなく、楽しいことも共有することができたイベントに感じました。

・安心して自身のセクシュアリティやジェンダーアイデンティティについて話せる環境が重要であると実感しました。

【相談員交流会】

①日時:2022年3月12日(土)14時～15時30分

②会場:オンライン配信(Zoom)

③参加費:無料

④主催:プライドハウス東京、にじいろCanvas

⑤参加団体:にじいろひろば・宮城県LGBT相談員・暮らし支える総合相談・仙台市職員・にじいろCanvas・プライドハウス東京

⑥内容

対面相談・電話相談に従事する相談員相互の情報交換会を行いました。

⑦当日の様子

・各団体の取り組みや相談を行う上での悩み、LGBTQ特有の対応の難しさ等について話し合いを行いました。その中で、各団体の役割、相談員の思い、これからの相談事業や居場所について意見交換を行うことができました。オンラインでしたが、つながりを作ることができたことで、あらたな社会資源の開拓や、ソーシャルアクションにつながったように感じました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

a.シンポジウム 性的マイノリティと自殺防止対策～仙台市・宮城県・東北地方における現状と課題

・第一部では、宮城県・仙台市・地元の当事者団体・東京のLGBTQセンターと行政・各団体からの現状や取り組みが共有され、それぞれの良さと課題を共有できました。既に多様な取り組みが行われていることを、改めて確認するとともに、それぞれの持ち場の強みを確認できました。

・第二部では、参加者から「行政の方がこのようなイベントに参加していることが大事」等の感想が寄せられました。祝日にもかかわらず宮城県や仙台市の職員の参加もあったことから、地元団体のにじいろCanvasと行政の日常的な連携の深さが感じられました。

b. c. 居場所・相談会(相談員の交流会を兼ねる)

・「セーフスペース～にじいろみやぎ」では、これまでのにじいろCanvasの活動によって多くの人が救われてきたことを知ることができたと同時に、住んでいる場所の特徴や、地方特有の良さ、困りごと等、その土地で活動している人の生の声を聞くことでしか見えてこない視点を明確化できました。

「相談員交流会」では、各団体の行っている取り組みや、LGBTQコミュニティに必要なことについて情報交換を行いました。その中で、各団体に出来ること、出来ないこと、またそれぞれの団体の役割について確認できました。それぞれの団体の相談員がLGBTQコミュニティへのサポートを真剣に考え議論できたことが印象的でした。

＜新たに明らかになった課題＞

a.シンポジウム 性的マイノリティと自殺防止対策～仙台市・宮城県・東北地方における現状と課題

・第一部では、地域の当事者団体同士で取り組みや課題を共有して連携を図る機会を、今後どう持続的に設けるかが、新たな課題として浮かび上がりました。

・第二部では「1つの団体だけが頑張るのではなく、団体同士も支え合うこと」「各団体の強みを生かしていくこと」「情報を継続して提供すること」「連携の機会を定期的にもつこと」の必要性を再認識しました。

b. c. 居場所・相談会(相談員の交流会を兼ねる)

・仙台にはLGBTQの社会資源が少ないということを認識しました。実際イベントでは、気軽に相談出来る場所や、安心して過ごせる居場所、LGBTQが集えるカフェや空間等日常生活

活の中にそのような居場所を求めている声を聞きました。今後も現地の団体と緊密に情報交換や連携をし、LGBTQコミュニティの人が孤独・孤立することなく、一緒に課題解決をしていくことが当面の目標であると感じました。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・地域団体や弁護士、行政等、LGBTQの自殺防止対策に取り組んできたさまざまな立場の人々の意見を共有しました。今後の協力体制や事業展開のため、各団体や個人間でつながりを作るよう情報交換や意見交換を重点的に実施しました。

(6)連携事業の報告会

①日時:2022年3月23日(水) 19時～20時45分

②会場:オンライン配信 (Zoom)

③内容:

第1部 自殺対策防止事業報告会～全国5か所の取り組みから

(1)取り組みの概要説明～プライドハウス東京から

(2)具体的な取り組みの内容と成果と課題

(3)来年度に向けての展望～プライドハウス東京の担当者から、資材配布等について

第2部 全国の団体やコミュニティとのネットワーキング

④当日の様子:

・第1部(1)では、プライドハウス東京の前田邦博から、今回の自殺防止対策事業の概要の説明がありました。取り組みを進める中で、LGBTQの課題に取り組む団体と自殺防止対策に取り組む団体との連携の重要性を再確認したという話がありました。

・同(2)では、全国5か所の事業に携わった地域の活動家や専門家等から、各取り組みに関する報告がありました。

北陸地方:ダイバーシティラウンジ富山の林夏生氏から、国や富山県の自殺対策計画について、その内容にLGBTQの記載があることが大事だという指摘がありました。また、地方ごとに単独の市区町村や団体だけでなく広域連携の取り組みを意識することが大事という話もありました。「LGBT支援北陸信越地方団体会議」についても紹介されました。

沖縄地方:ピンクドット沖縄の高倉直久氏から、ピンクドット沖縄についての紹介がありました。ピンクドット沖縄の開催当日には、会場に出展したブースで自殺防止対策の理解啓発、相談窓口の設置を行いました。特に沖縄県ではこれまで、LGBTQに特化した自殺防止対策の相談窓口が設置されたことはなかったので、ピンクドット沖縄でこういった機会が提供されたことはよかったのではないかと感想が共有されました。他にも「県や弁護士会との連携を通して、相談窓口の開設が増えてきたので、自殺防止対策につながることが期待される」「LGBTQの取り組みを、沖縄県のメディアがポジティブに取り上げている」といった話もありました。さらに社会福祉士・精神保健福祉士の伊藤朋世氏は、「自分の身近なところにもLGBTQの当事者がおり、相談をされたことがある」という体験を話しました。「辛い気持ちを抱える人の話を、全国で聞いている」「それらの相談の中で、自身の性に対する違和感や、差別偏見を受けたという話を聞くことがある」「自分の性のあり方を相手に理解してもらえない」という話を聞きました。今回のプライドハウス東京のような自殺防止対策の取り組みが浸透していることで、相談件数も増えているのではないかと思うという見解も共有されました。

九州地方:パーチ福岡のこう氏からは、福岡にじいろセーフスペースの取り組みについ

て報告がありました。居場所づくりの取り組みでは「参加者のみなさんが居心地よく過ごしているように見えた」「参加者のみなさんが、時間の最後まで参加していた」「参加者が少ない回ときは、少し寂しそうだった」という話がありました。参加者のみなさんがそれぞれのペースで、無理なく参加することができていたそうです。相談の取り組みでは、3回の日程全てで申し込みがありました。「共感的に傾聴したり応援したりした」「他団体の情報を提供した」そうです。相談者からは「自分の気持ちをうまく伝えることができました」という感想があったとのことでした。スタッフからは「これまでの地域での交流会に来ていた層とは違う層の人が来てくれた。プライドハウス東京との協働で、SNS発信を見て知ってくれたのかもしれない」という声がありました。

関西地方:NPO法人QWRCの桂木祥子氏からは、最初にQWRCの紹介がありました。ONEDAYワークショップでは、レインボー工作やランチの提供を行いました。気軽に話せる居場所としてのフリースペースや生きること・死ぬことをテーマに「体験談を聞く」懇談会を開催しました。特に体験談は、色々な立場の方から話を聞くことができました。日常の中で生や死について考える時間ときっかけがあることが大事だという指摘がありました。ネットワーク分科会では、LGBTQの課題に取り組む団体と地域の自殺防止対策団体がつながることができました。団体同士がつながることで、お互いがエンパワーメントされるということがポイントの一つとして挙げられました。また、北芝NPO法人暮らしのネットワーク北芝の築瀬健二氏からは、「性的マイノリティの方々が、自分の地域で自分らしく生活するということに想像以上のハードルがあることを感じた」という話がありました。「あらゆるマイノリティと接続しながら街づくりを進めてきた。そのことが部落差別等も解消すると思い、取り組みを進めてきた。それでもまだまだ十分ではない」「分科会を通して、様々な気づきを得ることができた」との指摘がありました。

東北地方:にじいろCanvasの小浜耕治氏から、仙台で行ったシンポジウム・セーフスペース・相談員交流会について説明がありました。シンポジウムでは「宮城県や仙台市などの行政とつながっていくこと」「自殺防止対策の基本計画の中にLGBTQについて記載してもらうこと」「ネットワークを作っていくこと」等の大切さを指摘しました。相談員交流会では、行政の自殺防止対策担当の部署や当事者団体等が参加しました。「この相談員交流会のおかげで仙台市とのつながりがたくさんできた」「色々な機関が連携して、お互いの取り組みを紹介し合うきっかけができた」等の成果についても紹介していただきました。「関係諸機関が連携し、問題解決に伴走する支援が必要である」という話も印象的でした。

・同(3)では、プライドハウス東京の前田邦博が「4月以降の取り組みは未定だが、いろいろな地域のお声を聞きながら取り組みを続けていきたい」「自殺防止対策の資材を通して、理解啓発を広げて欲しい」「民間団体の情報や送付先についても教えて欲しい」と呼びかけました。

・第2部では、各地の取り組みに対して、参加者から質問や感想が共有されました。「団体を超えた地域ごとの連携例等あれば、詳しく教えて欲しい」「東海地方と北陸地方でも進学等で交流がある。連携できたら嬉しい」「地域同士の人々の交流があるので、つながって欲しい」「今回連携の第一歩を踏み出すことができたので、今後は取り組みを継続していきたい。そのための枠組みをしっかりと作りたい」「協働事業の取り組みについては、引き続きプライドハウス東京にリーダーシップを発揮してもらいたい」「オンラインでの報告会で、色々な団体の話を聞くことができて参考になった」「自殺に至る前に取り組めることについてもさらに考えていきたい」「LGBTQの団体同士では連携できているが、それ以外の団体とまだ連携が取れていない。だからこそ色々な団体とつながり、問題解決に取り組んでいきたい」「行政に対して自分たちの存在をしっかりと示しておくことが大事。タイミングが整ったときに協働することができる」等の声が寄せられました。

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・LGBTQ支援や自殺防止対策に取り組む全国の団体等がそれぞれの経験やノウハウ、展望を共有した貴重な機会となりました。参加者にとっても、LGBTQの自殺問題が重大な社会課題であることを認識したり、全国の団体の努力や困難等を理解したりすることができたとして、学びが深まりました。

＜新たに明らかになった課題＞

・中高年のLGBTQ当事者の中には、子孫がいないため次世代とのつながりがないことに不安を感じるようになる人もいます。今後、幅広い年齢層を視野に入れ、それぞれの年代に寄り添った支援のあり方を検討することが求められると感じました。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・令和3年度自殺防止対策事業の全国5カ所での取り組みで協働した、各地域の団体で活動している人が集まって知見を共有しました。

エ) オンラインでのアウトリーチ・啓発

・必要な当事者により広く伝えるために、オンラインでのアウトリーチ・啓発を行いました。自殺念慮・自殺企図のリスクが高まりやすい複合的マイノリティへ向けた内容を実施しました(目標:のべ1,000回再生 実績:のべ1,844回再生)。

○事業内容・実績(アウトプット)

・次の3つの番組を作成し、YouTubeにて公開しました。

①『LGBTQ+いのちの相談窓口』紹介ムービー

実績(2022年4月10日現在):YouTube172ビュー、Twitter1,100表示

②「死にたい」ほどつらい気持ちを抱えているLGBTQ+ユースのあなたへ。【ゲスト シオリヌさん】～「LGBTQ+いのちの相談窓口」特別ムービー～

実績(2022年4月10日現在):YouTube204ビュー

③トランスジェンダー当事者が「生きること」について語り合う【ゲスト 西原さつきさん】～「LGBTQ+いのちの相談窓口」特別ムービー～

実績(2022年4月10日現在):YouTube368ビュー

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・死にたいほどつらい気持ちを抱えたLGBTQを対象にした「LGBTQ+いのちの相談窓口」を紹介すると同時に、そういった気持ちを一人で抱え込まないよう当事者目線で発信することができたと感じます。

＜新たに明らかになった課題＞

・本事業で作成した「動画」へのリーチを増やすためには、インターネットを使った拡散が重要であり、ネット広告等による戦略的な取り組みが求められています。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・SNSを駆使することで、広く効果的に講座を発信しました。
- ・LGBTQ全般に対してだけでなく、その中でも支援の必要性が高いユースやトランスジェンダーに特に焦点を当てるよう内容を構成しました。

【柱3】相談員の育成・連携

オ)相談員のオンライン養成講座の開発・提供

○事業内容・実績(アウトプット)

- ・どの相談支援機関でも、LGBTQが安心して相談ができる体制構築づくりのためには、まず相談員の理解増進が重要です。そのため、全国の自殺防止に取り組む相談員のための、オンライン養成講座を開発・提供しました。

①対象:全国の自殺防止に取り組む相談員(目標:4講座、のべ200人 実績:のべ650人)

②講座概要

(1)LGBTQ+とSOGIEの基礎 講師:小野アンリ氏(Proud Futures 共同代表)

実績(2022年4月10日現在):YouTube124ビュー

(2)LGBTQ+と自殺リスクに関して 講師:向坂あかね氏(Proud Futures 共同代表)

目標:YouTube57ビュー、Twitter159表示

実績(2022年4月10日現在):YouTube116ビュー、Twitter1,560表示

(3)トラウマ・インフォームド・アプローチ 講師:樋口亜端佐氏(愛知教育大学准教授)

実績(2022年4月10日現在):YouTube122ビュー

(4)LGBTQ+と依存症と自殺について 講師:倉田めば氏(薬物依存症回復施設「大阪DARC」ディレクター)

実績(2022年4月10日現在):YouTube288ビュー

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

- ・自殺対策に取り組む人々がLGBTQの自殺リスクについて学ぶための講座を広く提供することで、LGBTQが安心して相談できる体制づくりを後押しすることができました。

＜新たに明らかになった課題＞

- ・本事業で作成した「支援者養成講座」へのリーチを増やすためには、インターネットを使った拡散が重要であり、ネット広告等による戦略的な取り組みが求められています。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・SNSを駆使することで、広く効果的に講座を発信しました。
- ・臨床心理士や公認心理士、精神保健福祉士等、現場での経験が豊富な講師に解説していただきました。

カ)行政自殺対策課等への広報・啓発

○事業内容・実績(アウトプット)

・LGBTQの自殺企図者へも適切な支援ができる支援者を全国に育成するには、行政との連携が不可欠です。そこで、行政の自殺対策課職員や相談員にLGBTQの課題・支援について知っていただくための、啓発資材(a.冊子、b.ポスター、c.チラシ)を作成・配布しました。(目標:1,800カ所、実績:5,343カ所)

a.冊子(LGBTQと自殺防止自治体向けガイドブック)及び、

b.ポスターを作成し配布

都道府県・市区町村の自殺対策課(1,820カ所)

都道府県・市区町村の教育委員会(1,828カ所)

LGBTQ支援団体等(585カ所)

c.チラシ(いのちの相談窓口のリーフレット)を1,110カ所に送付

(内訳)

全国都道府県の相談支援等担当部署及びLGBTQ支援団体:236カ所、

関東1都6県の全市区町村①保健所②教育相談③LGBT相談担当部署:874カ所

○事業実施によって得られた効果

＜地域や社会に与えた影響＞

・「いのちの相談窓口のリーフレット」を送付した反応としては、

(1)自治体が運営する相談窓口を設置したり他部署へ配布したりするために、追加の送付を求めてきた自治体が複数ありました。

また、

(2)行政の相談窓口を設置してあったリーフレットを見た方から「いのちの相談窓口」につながった例も複数ありました。

＜新たに明らかになった課題＞

・本事業で作成した「啓発資材」を郵送等の配布方法でアウトリーチをしていくことになりませんが、さらなるアウトリーチを広げるためには、インターネットを使った拡散が重要であり、ネット広告等による戦略的な取り組みが求められています。

○取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・啓発資材によって用途を想定した上で送付先を選定し、効果的に送付することができました。